２０１７年（平成２９年）２月１日　水曜日

デーリー東北新聞　１２面　掲載

第72回国体スケート・アイスホッケー　長野

最終日

第72回国体冬季大会「ながの銀嶺国体」のスケート、アイスホッケー競技会最終日は31日、長野県内で競技を行い、５日間の熱戦に幕を下ろした。

青森県勢はアイスホッケー成年が決勝で北海道に４―６と敗れ、準優勝。少年は３位決定戦で宮城に快勝した。スピードスケートでは成年女子3000㍍の澤尻磨里英（八戸学院大）が２位、少年男子5000㍍で毛利信太郎（八戸西高）が４位入賞。2000㍍リレーの少年男子は５位、少年女子は７位だった。青森県は男女総合得点（天皇杯順位）で６位（スケート14位、アイスホッケー２位）だった。来年の第73回大会はスケート競技が山梨県、アイスホッケー競技は神奈川県で開かれる。

（取材班）

▷スケート天皇杯得点　①長野275②北海道182③大阪123④青森48▷スケート皇后杯得点　①長野124②北海道83③山梨66④青森32▷アイスホッケー天皇杯得点　①北海道90②青森75③埼玉60▷冬季大会スケート、アイスホッケーの男女総合得点（天皇杯順位）①長野300②北海道272③神奈川141⑥青森123

澤尻２位

成年女子3000

毛利４位入賞　少年男子5000

2000リレー　少年男子は５位

【成年女子3000㍍決勝】4分26秒45で2位だった澤尻磨里英（白帽子）＝エムウエーブ

表彰状を手に笑顔を見せる澤尻磨里英

強気の姿勢奏功　澤尻

スタート位置を決めるくじで内側を引いた瞬間、心は決まった。「相手と接触しないよう、細かく脚を出る」と成年女子3000㍍決勝に臨んだ澤尻は序盤から積極的に飛ばした。早くに責任先頭を完了すると、一度中段に降りてラスト1周は「自分でも最後は伸びるとは思っていなかった」ほど猛スパート。強気なレース運びで2位に滑り込んだ。

今季多くの大会をこなしてきたこともありウオーミングアップから疲労を感じたというが「気持ちで良かった」と充実感に満ちた笑顔を浮かべた。

地元の北海道から八戸に来て1年目に結果を出し、小柄な体に残った力を出し切り、最後まで滑り抜いた。

攻める気持ちを持ち続けた一方、周囲の動きを見る冷静さも失わなかった。抜かれないように内側のコースを突きつつ「相手と接触しないよう、細かく脚を出る」と成年女子3000㍍決勝に臨んだ澤尻は序盤から積極的に飛ばした。早くに責任先頭を完了すると、一度中段に降りてラスト1周は「自分でも最後は伸びるとは思っていなかった」ほど猛スパート。強気なレース運びで2位に滑り込んだ。

今季多くの大会をこなしてきたこともありウオーミングアップから疲労を感じたというが「気持ちで良かった」と充実感に満ちた笑顔を浮かべた。

地元の北海道から八戸に来て1年目に結果を出し、小柄な体に残った力を出し切り、最後まで滑り抜いた。

攻める気持ちを持ち続けた一方、周囲の動きを見る冷静さも失わなかった。抜かれないように内側のコースを突きつつ「相手と接触しないよう、細かく脚を出る」と成年女子3000㍍決勝に臨んだ澤尻は序盤から積極的に飛ばした。早くに責任先頭を完了すると、一度中段に降りてラスト1周は「自分でも最後は伸びるとは思っていなかった」ほど猛スパート。強気なレース運びで2位に滑り込んだ。

今季多くの大会をこなしてきたこともありウオーミングアップから疲労を感じたというが「気持ちで良かった」と充実感に満ちた笑顔を浮かべた。

地元の北海道から八戸に来て1年目に結果を出し、小柄な体に残った力を出し切り、最後まで滑り抜いた。

攻める気持ちを持ち続けた一方、周囲の動きを見る冷静さも失わなかった。抜かれないように内側のコースを突きつつ「相手と接触しないよう、細かく脚を出る」と成年女子3000㍍決勝に臨んだ澤尻は序盤から積極的に飛ばした。早くに責任先頭を完了すると、一度中段に降りてラスト1周は「自分でも最後は伸びるとは思っていなかった」ほど猛スパート。強気なレース運びで2位に滑り込んだ。

今季多くの大会をこなしてきたこともありウオーミングアップから疲労を感じたというが「気持ちで良かった」と充実感に満ちた笑顔を浮かべた。

地元の北海道から八戸に来て1年目に結果を出し、小柄な体に残った力を出し切り、最後まで滑り抜いた。

攻める気持ちを持ち続けた一方、周囲の動きを見る冷静さも失わなかった。抜

（林森輔）

総評

第72回国体冬季大会スケート、アイスホッケー競技会は31日、閉幕した。青森県はスケート15位、フリー14位、アイスホッケー11位。いずれもフリーで順位を上げ、２年ぶりの入賞を確保した。大隈はシード位を確保できたのは、健闘と言えるだろう。

【ショートトラック】

高校でスピードに取り組んでいた西山夢乃（神奈川大）が成年女子2種目に出場。いずれも準々決勝で敗退したが、まだ競技転向から１年。今後の成長に注目したい。

【アイスホッケー】

成年、少年ともに昨年を上回る結果を残した。

成年は準優勝。初戦の愛知戦では６GWSまでもつれる苦戦を強いられたものの、準決勝では前回王者の東京に６―０と完勝。試合を重ねるごとに連係も取れていった印象だ。

今回は運動量やスピードの強化のため、大学生を例年より多く招集。澤口監督も「いい入選ができた」と話すように、戦力は充実していた。若い選手が多いだけにまだ伸びしろがある。来年の王座奪還に期待したい。

少年は工大一高の選手を主体に八戸西高の選手もメンバー入り。準々決勝の埼玉戦では第３ピリオド終盤に勝ち越す劇的な勝利。準決勝の栃木戦は延長の末に敗れたものの１点を争う好ゲームを展開した。決勝戦の北海道―栃木が５―０とロースコアだったことを見ても、実力は優勝チームと拮抗している。

少年女子が６位入賞し、来年の国体出場権（シード）を確保した。大隈はシード位を確保できたのは、健闘と言えるだろう。

【ショートトラック】

高校でスピードに取り組んでいた西山夢乃（神奈川大）が成年女子2種目に出場。いずれも準々決勝で敗退したが、まだ競技転向から１年。今後の成長に注目したい。

【アイスホッケー】

成年、少年ともに昨年を上回る結果を残した。

成年は準優勝。初戦の愛知戦では６GWSまでもつれる苦戦を強いられたものの、準決勝では前回王者の東京に６―０と完勝。試合を重ねるごとに連係も取れていった印象だ。

今回は運動量やスピードの強化のため、大学生を例年より多く招集。澤口監督も「いい入選ができた」と話すように、戦力は充実していた。若い選手が多いだけにまだ伸びしろがある。来年の王座奪還に期待したい。

少年は工大一高の選手を主体に八戸西高の選手もメンバー入り。準々決勝の埼玉戦では第３ピリオド終盤に勝ち越す劇的な勝利。準決勝の栃木戦は延長の末に敗れたものの１点を争う好ゲームを展開した。決勝戦の北海道―栃木が５―０とロースコアだったことを見ても、実力は優勝チームと拮抗している。

成年女子の活躍光る　スピード

IH　成年、少年ともV射程

少年女子は2年ぶりに入賞なしだった。今大会少年史（八戸西高、短距離の山本大で入賞に届かなかったが、毛利が1500㍍5位、5000㍍4位と2種目で入賞。村崎翔太（八学光星高）が1万㍍で6位、リレーは男子5位、女子7位と結果を出した。特に男子は全国レベルの大会をいくつも経験し、精神面の成長を感じさせた。

都道府県対抗では兵庫、愛知など練習環境に恵まれた県の活躍が目立つ中、通算に貢献した。2選手とも全国レベルの大会をいくつも経験し、精神面の成長を感じさせた。

都道府県対抗では兵庫、愛知など練習環境に恵まれた県の活躍が目立つ中、通

【フィギュア】

大隈陽（三沢高）と廣谷帆香（工大一高）で臨んだ

デーリー東北新聞社提供